

## 令和4年沼津市教育委員会 第10回定例会会議録

1 日 時 令和4年10月20日(木)  
午後3時00分～午後4時23分

2 場 所 沼津市立図書館 4階 講座室

### 3 日 程

(1) 開会

(2) 会議録署名人の指名(川口委員 佐藤委員)

(3) 教育長職務代理者の指名

(4) 教育長報告

(5) 議案

議第20号 沼津市が設置する幼保連携型認定こども園に関する教育委員会の意見を聴取すべき事務を定める規則案に対する教育委員会の意見について

(6) 協議事項

(7) 報告事項

報告事項1 令和4年9月市議会定例会一般質問等について

報告事項2 第39回沼津市山口源新人賞の決定について

(8) その他

(9) 報告事項

報告事項3 令和4年度全国学力・学習状況調査について

### 4 出席者等

教育長 奥村篤、教育長職務代理者 土屋葉子、委員 川口浩史、委員 重光純、委員 佐藤清子、教育次長 山本貴史、教育指導監兼学校教育課長兼情報教育推進室長 山崎巖、教育企画課長 原将史、学校管理課長 望月浩司、教職員研修センター所長 中嶋記恵子、文化振興課長 林敬博、図書館事務長 中澤芳子、子育て支援課長 朝倉美晴、調整担当・教育企画課長補佐 内村一徳、学校教育課長補佐 渡邊芳久、文化振興課主任 小林良江、生涯学習課係長 小早川崇、生涯学習課主事 岡本考平、図書館係長 山下智子、子育て支援課長補佐 宇佐美利香、子育て支援課係長 中村洋介、教育企画課指導主事 栗原克弥、教育企画課指導主事 松岡ミユキ、教育企画課指導主事 岩本智明、教育企画課主任 藁科奏

### 5 会議内容

(1) 開会

奥村教育長が午後3時00分開会を宣言する。

奥村教育長 9月30日には富士山の初冠雪の便りが届いた。平年より2日早く、昨年より4日遅い観測である。すでに10月も半ばを過ぎたが、残暑を感じつつも、秋の深まりとともに朝晩はめっきり涼しくなり、今朝は10℃を下回り寒さを感じた。急激な気温の変化に留意し、体調を整えてスポーツ・読書・食欲・芸術の秋を満喫したい。また、新型コロナウイルスの感染状況だが、諸外国では第8波の広がりも聞かれているようだが、本市の児童生徒・教職員は共に落ち着きを見せている。年

末以降に予想されるインフルエンザの流行と併せ、感染を最小限に食い止められるように、感染拡大防止に留意した生活の定着を呼びかけていきたいと思う。

(2) 会議録署名人の指名

奥村教育長より、会議録署名人に川口委員、佐藤委員を指名する。

奥村教育長より、本日の会議は一部非公開とすることを委員に諮り、了承される。

傍聴人 0人

奥村教育長より、土屋葉子委員が9月市議会定例会において沼津市教育委員として任命の同意の議決があったことについて報告する。

奥村教育長 土屋委員には、令和8年10月までの任期を務めていただく。よろしくお願ひしたい。改めて、土屋委員から一言御挨拶をお願ひする。

土屋委員 昨日、辞令をいただいた。これほど長く1人の人間が同じ職に就くのは、あまりよくないと思っている。体力の限界も感じているが、思うところがあり、あと4年間頑張りたいので、皆様、よろしくお願ひしたい。

奥村教育長 我々も土屋委員から毎日元気をもたらしている。土屋委員に負けず、元気に頑張りたいと思う。今後も「貴き志を持つ人」の育成に向けて、教育委員会として取り組んでいく。皆様、よろしくお願ひしたい。

(3) 教育長職務代理者の指名

奥村教育長より、教育長職務代理者について、10月22日付けで、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項に基づき、新たな教育長職務代理者として川口浩史委員を指名する。

(4) 教育長報告

奥村教育長 9月14日（水）から10月17日（月）までの34日間の会期で、沼津市議会定例会が行われた。教育委員会に関わる一般質問を6人の議員からいただいた。詳細については、後ほど事務局から報告する。

9月30日に、第四小学校にて市長や吉本興業所属の沼津市住みます芸人「ぬまんづ」らと一緒に、リニューアルした沼津昔話の第一巻「天狗のすもう」の読み聞かせを行った。これは市場町の八幡神社に関わる話であり、巻末には子供たちが取材したページも掲載されている。久しぶりの読み聞かせなので張り切り過ぎてしまったが、登場人物になりきり踊りながら2年生の子供たちと直接対話し、非常に楽しかった。沼津市は、来年7月に市制100周年を迎える。これまでの沼津の歴史を振り返る中で、「先人達への感謝と敬意」「郷土沼津への誇りと愛着」そして「次の100年への新たな一歩」をコンセプトに市民の皆様と盛り上げていきたいと思っている。沼津市の次の100年を担う主人公は、まさに子供たちである。読み聞かせを通して、子供たちに郷土の文化や歴史をしっかりと伝承し、沼津市の未来を託していきたいと強く願うとともに、大いに期待している。現在、地域の方は、この昔話が地域になぞらえているものであるため、第四校区の子供たちに1冊ずつ配布してはどうだろうか、という話も上がっていると伺っているところである。また、第二巻は、浮島を舞台にしており、現在印刷をしているところである。

10月2日（日）に、御用邸記念公園で開催された第49回沼津市芸術祭茶会に市長や佐藤委員と参加した。三つの茶席を訪れたが、中でも子供たちが茶を点てる体験ができる「初めてのお茶会」と名付けられた茶会が印象的であった。日本文化を継承していく上でも素晴らしい試みであると思った。芸術祭につきましては、昨年まで新型コロナウイルス感染症のため規模を縮小して行っていたが、今年度は3年振りにステージ部門を含め全部門で開催予定である。11月20日の閉会式まで、まだ多くの催しが予定されているので、様々なジャンルの芸術・文化をお楽しみいただければと思う。私は直近ですと、23日（日）に市民文化センター小ホールで行われる邦楽祭の鑑賞に行き、日本の芸能文化に触れながら、琴や三味線、尺八の音色に癒されてきたいと思う。

他には、10月2日に香月・長世碑前祭、10月9日に子どもの遊び王国in沼津、10月10日に山口源新人賞授賞式、10月16日に第69回沼津牧水祭碑前祭・芝酒盛などに出席した。本日は生涯学習課の小早川係長が出席しているので、子どもの遊び王国in沼津の状況等を報告していただきたいと思う。

生涯学習課係長 10月9日10時から愛鷹広域公園と芝生広場において、子どもの遊び王国in沼津が3年ぶりに開催された。来場者数は、約7,000人と伺っている。天候により約1時間早く終了したが、コロナ前と遜色ない来場者数であった。日頃から活動しているそれぞれの団体に連携して対応していただいたため、大きなトラブルもなく、各ブースで多くの子供たちに楽しんでいただけたと考えている。感想としては、こういった体験がその後の子供たちの情動的な部分等を含め大きく影響していくのではないかと考えている。引き続き来年度に向けて課題等を掘り起こしながら継続していきたいと考えている。

奥村教育長 現在の子供が、昔かつて子供だった方と一緒に遊んでいる和やかな雰囲気は、非常に微笑ましかった。なお、山口源新人賞授賞式につきましては、後ほど報告事項で併せて報告していただく。また、10月16日に行われた牧水祭には、土屋委員や佐藤委員も出席され、その中で、公益社団法人沼津牧水会が毎年主催している中学生短歌コンクールの表彰式が行われた。1,590首もの応募作品から、中学生らしい自由な発想で日常や世相を思い描いた多種多様な10首が特選として表彰された。子供たちのものの見方や感じ方、そして表現力には驚かされるばかりであった。2首ほど紹介したいと思う。

・言わせない 余計なことは言わせない 目で訴える 三者面談

・皆笑う 僕は夢見る国語の授業 火星で働く未来の自分

保護者や担任からのプレッシャーに対する川柳的な発想や、壮大な夢を抱く頼もしさを感じた。教育長報告は以上とする。

#### <議 案>

奥村教育長 日程（5）議案である。

議第20号 沼津市が設置する幼保連携型認定こども園に関する教育委員会の意見を聴取すべき事務を定める規則案に対する教育委員会の意見について

<幼保連携型認定こども園における教育課程に関する基本事項の策定に関すること及び幼保連携型認定こども園の設置又は廃止に関することを、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、沼津市が設置する幼保連携型認

定こども園に関する教育委員会の意見を聴取すべき事務と定める規則案について、沼津市長から教育委員会の意見を求められたので、審議を求める。教育委員会としての意見は、異議はないものとする。>

(教育企画課長 資料に基づき説明)

- 奥村教育長 説明が終わった。本件に対する御質問、御意見等はいかがか。  
幼保連携型認定こども園とは、どういう施設なのか、今一度御説明願う。
- 子育て支援課長 幼保連携型認定こども園であるが、通常幼稚園では、だいたい午後2時まで教育の場である。認定こども園では、そこに保育認定の子供たちを含め、朝から夕方6時まで、延長の場合は7時まで、子供たちを見ながら教育を担保している。幼稚園と保育所を合わせた施設ということで考えていただければよいと思う。
- 奥村教育長 2時以降6時までの4時間は、教育に関する対応はあるのか。  
子育て支援課長 幼児教育をどのように捉えているかわからないが、いわゆる幼稚園の課程に関するものは2時までである。その後の日常生活においても教育的な配慮はされている。
- 土屋委員 今沼津市内には、これに該当する施設はどのぐらいあるのか。  
子育て支援課長 公立においては戸田のこども園が該当する。沼津の教育に記載されているが、幼稚園型認定こども園と幼保連携型認定こども園がある。幼保連携型認定こども園が7園、幼稚園型が5園である。
- 奥村教育長 公立は戸田、私立は6園、幼稚園型が5園である。ほかにいかがか。  
佐藤委員 認定こども園の制度ができたときに、どこかの幼稚園が、うちが沼津で最初の認定こども園であるというお話を伺ったことがある。その後どんどん認定こども園ができ、沼津の教育の記載を見ると、もうこんなにあるんだというのが正直な気持ちであるが、この議案の内容は、今までの幼稚園や保育園が新たに認定こども園になるときに、「意見を述べることをしますよ」ということなのか。
- 子育て支援課長 今回お願いしている案は、あくまで沼津市が設置するものであり、民間ではなく公立ということになる。
- 奥村教育長 現在設置済の対象は戸田のこども園である。  
佐藤委員 私立が認定こども園になりたいというときは、定められた条件をクリアすれば認定こども園を名乗れるのか。
- 子育て支援課長 認定こども園になるための基本的な条件があるので、そこをクリアしていれば基本的にこども園として認められるが、認可をするのは市ではない。
- 川口委員 認定権者は、国か、県か。  
子育て支援課長 認定権者は県である。
- 奥村教育長 この施設ができた頃は、免許と資格、いわゆる保育士の資格と幼稚園教諭の免許のどちらかを持っていればよかったと認識している。その対応はしばらくの期間と記憶しているが、現状はいかがか。両方とも持っていないと勤められないのか。
- 子育て支援課長 現在混在している状況であるが、認定こども園に勤務するためには保育教諭の資格が必要となる。

奥村教育長 御意見も尽きたのでお諮りする。議第20号 沼津市が設置する幼保連携型認定こども園に関する教育委員会の意見を聴取すべき事務を定める規則案に対する教育委員会の意見について、原案どおり可決するというのでよいか。

各委員 異議なし。

奥村教育長 異議なしと認める。議第20号については、原案のとおり決する。

<協 議>

奥村教育長 日程（6）協議事項は、本日は案件なし。

<報 告>

奥村教育長 日程（7）報告事項である。

報告事項1 令和4年9月市議会定例会一般質問等について

<本会議で行われた一般質問について報告する。6人の議員から、本市における教育環境の充実について、ヘダ号の造船に関する歴史的財産の保存・活用について、本市におけるインクルーシブ教育推進について、ヤングケアラーへの支援について、教育現場のデジタル化について等の質問があり、市長、教育長及び教育次長が答弁を行った。>

(教育次長 資料に基づき説明)

奥村教育長 説明が終わった。本件に関する御意見、御質問等いかがか。

川口委員 先生方の時間外勤務の状況だが、以前は先生方が教育以外の周辺業務、教育にまつわるいろいろな仕事を一手に引き受けていたような現状があった。しかし、答弁を読ませていただくと、今はICT環境が充実し、給食費の公会計化や支援員を入れることで先生方の仕事を軽減するいろいろな取組が行われている。それにも関わらず、令和3年度に時間外勤務が年間360時間を超えた先生が全体の半分以上、二月以上連続して月80時間を超えた先生は7.2%に当たる78人いるというのは、少なくないと思う。現在も残業をしなくてはならないという環境がある中で、次に解決すべき課題は何なのかと思う。何が先生方の負担になってしまっているのかが、非常に気になる。

奥村教育長 日々学校は努力していると思うが、数字を見ると、先程のICT化による負担軽減が、あまり驚くほどにはなされていないのではないかと。

学校教育課長 そのとおりであると思う。給食費の公会計化、児童生徒支援員、コミュニティ・スクール等、いろいろなことで支援していただき本当に助かっている。あとは教員の意識の問題であり、リレー会、マラソン大会、運動会等、本当によいものがたくさんあるが、そこを思い切って切れないという部分がある。子供たちにとって非常によいものばかりあるが、その中で何を削って何を残していくのかという部分では、12月に教務主任を集め部活動を含めた来年度の教育課程について話し合うが、思い切った意識改革をしていかなければずっとこのような状況だと思う。特に、依然として中学校教員の勤務時間が長いのは、部活動で練習試合を1日やると、およそ8時間の勤務になってしまう。それだけでも4

週間あれば、32時間になる。学校でもいろいろな検討をして行事等を削ってはいるが、やはり子供たちにとって面白い楽しいという部分はどうしても切り切れないところがある。その辺りは、やはり教育課程を工夫しない限り減らないと思っているため、そのような形で取組を進めていきたいと考えている。

奥村教育長 教育課程に関しては、これまでもかなり努力はしているが、まだもう少し努力できる部分があるかと思う。

川口委員 そう思う。先生たちは非常に大変だと思うため、どうしたらもう少し楽になるのかと考えている。いろいろやってくさっているが、話を聞いていて、子供たちが楽しめる企画やその準備等は、授業以外にやることが多いということではないか。あとは、部活はやはり大きいのだと思った。

奥村教育長 私たちが子供の頃は、1クラス45人、50人ぐらいだっただろう。1クラス50人、45人、そして40人、今その40人がずっと続いている。ようやくここで、小学校からだが、1クラスの人数が35人になる。全体の子供の数が減っているためそのような状況になっていくが、クラスの子供の数がどんどん減っていく。学校規模も小さくなり学級数も減っていくが、学級数とそこにいる先生の数は連動している。先生方がやる仕事の負担を軽くするためには、行事を減らしたりやり方を工夫したりということもあるが、一番簡単なのは、先生方の数を増やすことであり、それが一番の解決策だと思う。それしかない、ずっとお願いしている。しかし、日本全体を考えると、1人の先生を増やすことによって莫大な予算になる。子供の数が減りクラスの人数が少ないなら、担任の先生は昔に比べたら楽じゃないかと思われがちだが、これもよく言われるように、特別な支援を必要とする子供の数が非常に増えている。特別な支援を必要とする学級、いわゆる特別支援学級、あるいはそういう指導を特別な教育課程を組んで行っている通級教室に通う子供の数もどんどん増えている。そういう意味では反比例であり、子供の数が減っても、むしろ仕事が増えて大変になり、そのようなことに労力を尽くす時間が多くなっているのが事実である。文部科学省と財務省のやりとりの中でも、その点がどうしても食い違ってしまう。また、教員の人数と、今もう一つ問題になっているのは、教職員の独特な法律である給特法である。これは、基本給の4%の賃金を教職調整額として上乘せし、全ての時間外勤務をそれで網羅する。ただし、何に関しても時間外勤務をやってもいいよということではなく、限定された4つの項目しか認めないというものである。基本給の4%というのは、50年以上前に算定された、いわゆる残業代であり、月8時間程度の残業代が4%に当たる。そう考えると、月80時間は莫大な残業量であり、なぜこんなに残業しなければならないのかということである。そこにはいろいろな理由があると思うが、先生方が子供たちのためなら何でもやるという部分や、生徒指導、あるいはそれを含めた保護者への対応、あるいはいろいろなアンケート等の調査関係、あるいは何々教育、こういう教育、ああいう教育をやりましようとなったときに、全部学校が引き受けている。あれもこれもという部分も確かにある。先程、学校教育課長がそれを精選していくという話をしたが、それだけではスズメの涙であるかもしれない。それが直接的な原因だとは言いきれないが、多くの先生方が体調を壊しているという状況もある。また、ストレスを抱え違う方向の行動をしてしまう先生もいるかもしれない。そういうことも含め、今の状況は先生方にとって極めて望ましくな

い。それが一番如実に表れているのは、先生になりたいという子供の数が激減していることである。静岡県は、たまたま去年より今年の方がよかったが、採用試験の倍率も非常に低い。若者は今、教員をいわゆるブラック企業的な扱いで見ている。

- 川口委員 先生たちがキラキラしていないと、子供たちのあこがれの存在にならない。  
奥村教育長 おっしゃるとおりである。先生たちを見て、あこがれるな、魅力のある職業だな、私も先生になりたいなというように、私たち教員になっている人間は、だいたいそういう動機が小学校、中学校頃にあったと思うので、小中学校の先生方には、是非子供たちにあこがれられる先生になってほしい。課題は山積しており、学校も手を抜くことなく本当に頑張っている。なかなか時間外勤務が減らないのが現状であるが、決してそれに甘んじているわけではない。
- 川口委員 あまりにも大きな話であった。  
奥村教育長 平野議員も先生方のことを思い、さらに改善を図れないかという質問であったと思う。  
ほかになれば、本件については報告を受けたということで御了承願う。

#### 報告事項2 第39回沼津市山口源新人賞の決定について

＜本市ゆかりの版画家である山口源を顕彰し、将来有望な版画家に授与している沼津市山口源新人賞の審査が行われ、五日市諒子さんの「Chaos in Shibuya」が受賞作品に決定したことについて報告する。＞  
(文化振興課長 資料に基づき説明)

- 奥村教育長 説明が終わった。教育長報告でも触れたが、10月10日に東京上野にある東京都美術館で、新人賞の授与式を行った。私と同行した文化振興課の小島主任から当日の様子等を報告していただきたい。
- 文化振興課主任 10月10日に東京都美術館にて、第89回日本版画協会版画展が開催され授賞式が行われたので、実際の作品を見て来た。今回の受賞作品は、リトグラフ技法で作られたものである。この作品は、一見して美しいだけの絵ではなく、題名のとおり混沌とした世界、自己矛盾、相反するものを抱えている現代の社会をとと緻密な表現で表したメッセージ性の強い作品だと感じた。リトグラフは、版にダーマトグラフという油性の鉛筆などで描画する。クレヨンのようなイメージの物であり、私も実際に版画ワークショップで体験してみたが、細かい筆致を出すのは大変難しく、作者の技術力と、作品テーマ、視点などが高く評価されたと思った。
- お知らせになるが、現在、沼津市芸術祭が開催されている。昨日プラサヴェルデにて沼津市芸術祭美術展の審査が行われ、「洋画」「日本画」「水彩・版画」の3部門の受賞者が決定した。コロナ禍の影響で3年振りの開催となり、出品数の減少が心配されたが、前回(令和元年度)よりも21点多い128点となり、部門の方々も安堵した様子であった。24日まで展示しているので、是非御高覧いただければと思っている。
- 奥村教育長 何年かに一度、この授賞式を沼津でモンミュゼを会場にしてやっていたと思うが、今後の予定はいかがか。

- 文化振興課長 おっしゃるとおり、新人賞受賞者が2年に一度沼津に集まり、教育長とディスカッションをする機会を設けている。作家の皆様にそういった機会に沼津に来て沼津を知っていただき、ワークショップ等に御参加いただいている。再来年にそのような機会を設け、沼津にお集まりいただく予定である。
- 奥村教育長 この新人賞を受賞された方々が、学校やららぼーとの一室を借り、高校生、あるいは一般の方を対象にワークショップを毎年行っている。その様子も東京都美術館の一角のブースに、沼津の取組としてパネルで紹介されている。私も訪れその作品の多さと広さに驚いた。ちなみに、第89回日本版画協会版画展授賞式とYouTubeで検索すると出てくるので御覧ください。今回は第39回となり、かなり歴史を重ねた賞になる。  
御意見、御質問等いかがか。
- 土屋委員 私も昨年は上野まで行き、実際に全ての作品を見せていただいた。沼津のブースもとても充実しており、今年はさらによいものになっていたと思うが、行けなくて残念であった。今モンミュゼが閉館しているので、この作品を含めて、沼津市で所蔵している新人賞の皆さんの作品や、それ以外の賞をとられた皆さんの作品を、市民の皆さんになるべく早く見ていただける機会が作れるとよいと思っている。その辺の予定など、わかっているならば教えてほしい。
- 文化振興課長 先程、教育次長から報告していただいたように、庄司美術館の指定管理者が議決され、来年の1月に再オープンする予定である。その中で、庄司美術館に収蔵されている山口源大賞や山口源新人賞の作品を、市民の皆様に御鑑賞いただく機会を設けるべく準備を進めたいと考えている。
- 奥村教育長 余談だが、3年前にこの山口源新人賞を受賞した木村美咲さんと、当時、原教育企画課長が文化振興課長のときであったが、表彰式後に食事に行き、沼津のいろいろなところを御案内した。その中で淡島に行き、その淡島が木村さんの心に響き、それをまた作品としてこの版画展に出品したところ、準会員の部でグランプリを受賞した。タイトルは「淡島」であり、鳥肌が立つほど感激した。沼津の思い出を作品にさせていただき、このようなつながりを持つことは大変素晴らしいと思う。今後、そういう方にも先程のワークショップの講師等をやっていたらとありがたいと思う。
- 奥村教育長 ほかになければ、本件については報告を受けたということで御了承願う。

<その他>

- 奥村教育長 日程（8）その他である。  
何かあるか。なければ、残る日程は非公開とする。

---

報告事項3については非公開情報が含まれるため、当日は非公開としたが、本会の質疑応答内に非公開情報は含まれなかったため、公開する。

<報告>

- 奥村教育長 日程（9）報告事項である。



### 報告事項3 令和4年度全国学力・学習状況調査について

<令和4年4月19日に全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査について検証改善委員会を実施し、沼津市の分析結果と今後の授業改善に生かすための取組をまとめたので報告する。すでに分析結果の資料を各校に送付しており、全職員が資料を活用して子供の実態を把握し、授業改善を図るよう市教委で働きかけを行っていく。結果をまとめたリーフレットは、12月末までに調査を行った小学校6年生と中学校3年生だけでなく、来年度調査を控えている小学校5年生と中学校2年生にも広げ、保護者を中心に配付する予定である。小学校6年生と中学校3年生には、さらに各校で分析した結果資料も同時に配付予定である。>

(研修センター所長 資料に基づき説明)

奥村教育長  
土屋委員

説明が終わった。本件に関する御意見、御質問等いかがか。

先日見たニュース番組で、他県であるが、この調査を前に校長先生が頑張らせるようにと指示し、先生方によっては子供たちに過去問を解かせ事前対策を行ったと報道していた。事前対策をすれば、結果の数値が少しはよくなると思うが、これはあくまでも調査である。沼津市はそんなことはないと思うが、そのような実態を見聞きしたことはないか。

教職員研修センター所長

以前、平成25年度小学校国語Aの問題で、静岡県が全国最下位になったことがあった。そのとき、本市の小学校では、いわゆるテストとして、單元ごとの1枚にまとめられたテストに取り組んでいた。ところが、全国学力・学習状況調査では、複数枚のものが冊子になっている問題用紙であったため、子供たちが最後の問題まで行き着かなかったことが、大きな課題としてあった。そうなる、本来の力を見る調査としてはどうかということになり、それを踏まえて一時は、調査で本来の力を図るための予備活動として、少し以前のものをやったことがある。

奥村教育長

小学校5年時、中学校2年時に、ある出版社の類似のテストで練習をしたという経緯はある。今はそういうことは一切行っていない。テストを受ける子供たちは異なるため因果関係はないと思うが、毎年傾向として、比較的小学校6年生は、県の平均正答率、あるいは、国の平均正答率よりも若干下回ってしまう。逆に中学校3年生は、県の平均正答率や国の平均正答率をかなり上回った状態で卒業していく傾向は変わっていない。それはなぜか。学び続ける姿勢や、先日の理科の科学研究発表会のときも言ったが、探究する力、好奇心、体験等、小学校の先生方はそのようなことに非常に力を入れて指導し、子供たちにベースになる力を付けてくれていると思っている。子供たちはそういう力を持って中学校へ入学し、中学校の先生の方が、授業がうまいとかそういうのではなく、小学校でベースが出来上がった状態で中学校生活を送ることで自然と力が付くのではないのか、だから自信を持つようにといつも小学校の先生方には伝えている。しかし、先生方は「でも悔しいです」と言う。悔しいという気持ちは自分自身に対してであり、この調査は何のためにやっているのかということ、先生方の授業のあり方、改善を目的としている。先生方は、この部分の力が弱い状況をどんな授業をやったら克服できるのか等を考え実践していく。経年的

に同じような課題が毎年発表されているのは、改善がまだ至っていないということである。先程も言ったように、調査を行う学年がいつも小学校6年生と中学校3年生であるため、その学年に該当する先生方以外がどれだけ意識しているのかという部分も課題であると思う。

重光委員

中学3年生の正答率が全国よりよくなっているのは、高校に進学する子供の割合が関係あるのかとも思った。正答率が4割を切っているものは、全国平均より上回っても成果ではない気がする。概念を理解できる子供とできない子供がいるため、難しいのかと思う。数字を足したり引いたりするのはわかるが、抽象的に考えることが難しいというところがある気がする。日本全国で正答率が低いのはそういうところかと思う。また、小学校理科の粒子の問題において、全国平均より低いことについての分析だが、コロナの影響で実験の回数が減っているとあるが、全国的にそうではないか。特に沼津市に有り得る事象でなければ、全国より下がった理由にはならないのではないかと思った。

教職員研修センター所長

確かにおっしゃるとおりである。報告書に挙げるにあたって、全国的に条件は同じであるとわかっていながら記載したが、実際に実験ができなかった。大型提示装置を使いながら演示的なものを映す等、工夫して取り組んでいる学校もあった。しかし、なかなか体験的にできなかったことは非常に大きかったと思う。全国と比べより低い数値となっているため、理科では実験を大事にすることの大切さを伝えていきたいと思う。

奥村教育長

平成18年、19年あたりの静岡県の理科に関しては非常に定着率が低いというデータが出ており、その対応を迫られた。先生方が実験を行うにあたり、事前の実験から当日の準備、片付け等、いろいろと手間がかかり、それを億劫に思っている先生方もいるのではないかということで、理科の専科教員、理科だけを教える教員を採用する制度を作らせてもらった。何年かその制度を続け、今はもう採用はないが、小学校では専科教員に力を入れている。小学校の先生はオールマイティに国語から何からいろいろな教科を教える中で、理科の授業の準備に関しては、静岡県全体の雰囲気として、データの的にはそこが弱いということが打ち出されており、理科を専門に教える教員を採用しながら改善していくことを、もう十数年行ってきたと思うが、それでも沼津市はデータ的に見ると全国よりも弱いということは、まだ実験に対して課題があるかと思う。同じ課題を毎年繰り返しているのはどうなのか。教職員研修センターには、そこを改善するために、センターとしてどのようなてこ入れをすべきかを考えていただくようお願いしたい。いずれにしても、小学校から中学校で義務教育を終えて卒業するまでの9年間のスパンで子供たちを見ていくという部分では、沼津は非常に小中学校がバランスよく頑張ってくれていると思っている。

ほかになければ、本件については報告を受けたということで御了承願う。

ほかになければ、本日の定例会を終了する。

午後4時23分 閉会